

平成30年度 県民参加の森づくり事業 実施報告書

事業名

「熊との共生ができる里山づくり」

目次

1. 事業の目的・特徴
2. 活動の計画
3. 活動状況
4. まとめ
5. 添付資料

平成30年度計画地図

平成30年12月21日

金沢諏訪堂の会

1. 事業の目的・特徴

2010年から美郷町カントリーパークの東に位置する奥羽山脈一帯の山林を整備している。通称、北沢林道、黒森古道、大持沢、芳碓沢、御嶽古道と言われている領域である。かつて歩かれていた道を地図とGPS機器を使って特定し、草を刈り、藪を払い、生い茂った樹木を伐採し、人が歩けるようにした。寒長根にある黒森御嶽登山口から黒森山頂までは5.5キロメートルに及ぶ。低山地は杉林であるが、中山地はナラ、イタヤカエデ、トチノキ、ホオノキ、ブナなどの広葉樹林となり、標高500メートルを超えるとブナ林となり、標高700メートルの山頂付近はカエデ（モミジ）林となる。この黒森古道沿いの四季の移り変わりに見せる景観は美しい。道中にある家衡沼、武衡沼、鏡沼、三日月沼、御嶽天沼では、アカトンボ、ギンヤンマ、クロサンショウウオとモリアオガエルが見られる。秋には鏡沼と御嶽天沼に雁が飛来してくる。この山林では豊かな自然環境が保たれている。今里で話題になっているツキノワグマは随所に生息の跡を見付けることができる。杉の巨木の下、ミズバショウの中などに多くみられる。ハチの巣を掘り起こし、タケノコをかじり、サクなどの山菜を食べた跡も見受けられる。8年間山に入っていて、クマと遭遇することが数回あるが危険な目に遭ったことはない。クマたちが、我々が再整備した道を走り回っていることは、道上にある糞から確かである。巷の意見と違ってクマとの共生は可能だと信じている。

今年度は子供らと一緒に広葉樹を植樹した。場所は標高400メートルにある大持沢である。黒森古道を登りのクマの巣地点から左折したところにあり広さは約20ヘクタールの台地である。かつてここは住民の萱取り場であった。周囲を山々に囲まれた盆地のような台地である。不思議なことにここには樹木が生い茂っていない。僅かにクルミ、イタヤカエデ、ブナが点々と立っているだけである。ほとんどがキイチゴなどの灌木の藪となっており、表面はクズに覆われている。この台地にクマの餌となる広葉樹を植えることにした。ナラ、クヌギ、トチノキ、ブナ、クリである。苗木を秋田県林業研究研修センターと小貫太郎氏から提供して貰った。大持沢の下刈りと不要樹木の伐採を金沢諏訪堂の会で行い、植樹を仙南雁の里ライオンズクラブ、美郷町立仙南小学校の子供たち、金沢諏訪堂の会の三者の協同で行った。

子供たちをこの行事に誘った最大の理由は、山に親しみその面白さを体験して貰うことである。親が同伴するので、親にとってもよい経験になると考えた。事前に子供用の案内を作り配布した。長期的には、地球温暖化を防止する対策

の一つとして山林をきれいにし植樹することと、クマなどの鳥獣との共生のために豊かな実りがある山林を復活させることの考え方と実施することを次世代に繋ぐことを狙っている。

2. 活動の計画

今年度の実施計画に基づいて大持沢に植樹するための準備作業を行い、二回に渡り植樹を行った。

6月9日	大持沢の植樹する場所を決め下刈りと整地作業
6月16日	第一回大持沢植樹
9月16日	大持沢の植樹する場所を決め下刈りと整地作業
9月22日	大持沢の下刈りと整地作業
9月29日	大持沢の橋の補強作業
10月13日	第二回大持沢植樹
11月25日	仙南雁の里ライオンズクラブ15周年記念式典において 本事業が表彰される

3. 活動状況

平成30年6月9日 場所の特定と下刈りと整地



大持沢に至る道の造成



不要な樹木の伐採と集積処理



植樹する場所を決める



下刈りと集積処理



下刈りと集積処理



整地された植樹場所

平成 30 年 6 月 16 日 第一回植樹



苗木を配置



トガで穴を掘る



苗を植える



間伐材から添え木を作る



植樹後のトチノキ



植樹した場所で記念写真

平成 30 年 9 月 16 日 植樹する場所を決め下刈りと整地作業



6 月に植樹した苗木の状況（9 割が根付く）



6 月に植えた苗木の周囲の下刈り



10月に植樹する場所への道作り



植樹する場所の下刈り



カヤが生い茂り難航



身の丈を超す藪に難航



クルミの大本下の下刈り



不要ブナの間伐

平成 30 年 9 月 22 日 大持沢の下刈りと整地作業



整地中半の植樹場



下刈りと集積処理



やっかいな切株の処理



丹念に整地作業



整地された植樹場



橋を架ける材木を切り出す



堰に橋を架ける



橋を確かめる



作業終了後の植樹場

平成 30 年 9 月 29 日 大持沢の橋の補強作業



植樹する台地と道の整備



番線で橋の補強作業



番線で橋の補強作業



番線で橋の補強作業



完成した大持沢橋

平成 30 年 10 月 13 日 第二回大持沢植樹

午前 8 時に茨島にある金沢諏訪堂の会事務局に集合する。朝礼で今日の行事の内容を説明する。その後、全員の自己紹介をする。美郷町立仙南小学校の児童が 9 名、その父兄が 8 名、仙南雁の里ライオンズクラブが 3 名、金沢諏訪堂の会が 5 名の総勢 25 名である。

用意した苗木は、クヌギ、クリ、トチオキ、ブナである。トラックに分乗し黒森古道の登山口に向かう。登山口の手前から工事用の重機があるのが見えた。道は重機の往来のため泥のぬかるみになっていた。寺田牧野農業協同組合の山林の間伐作業が始まっていた。作業者は横手森林組合である。この作業のため重機が数台道を塞いでいたために登山口までトラックで行くことができない。そこで、登山口から 200 メートルほど下の十字路に停車しそこから歩くことにした。道のぬかるみは深刻で、足に纏わりついてくるために歩き難い。間伐作業が終わったら、道をきれいに整備してくれることを願うばかりである。

黒森古道を登り山に入ると道の周囲には、間伐で伐採された杉が積み重ねられていた。同じ長さの木材になっているので、建材用ではないと分かる。森林組合の方に訊いたらパルプの原料用だと説明してくれた。道の周囲には、不要となった杉の枝葉が無残に捨てられている。間伐は行われたが山は荒廃状態に変わりはないように見える。足を泥んこにしてみんなで山を登った。糸畑台の分岐点まで重機に壊された道が続いた。手に苗木を持って苦情も言わずに登ってくれた。子供たちは悪路にもかかわらずみんな元気に歩いた。糸畑台を過ぎたら、道はいつもの美しい黒森古道になった。随所で山の説明を行った。家衡沼では、クロサンショウウオとギンヤンマを見て子供らは喜んだ。午前 11 時に目的地である大持沢植樹現場に着いた。広い整地された場所に着いて子供たちは大はしゃぎである。

まず、苗木の配置を決めた。その後、自分が好きな苗木を植えて貰った。大人たちが子供の手助けをした。また、別グループがクルミの木を切り出し、添え木を作成した。約一時間半で植樹作業が終わった。やはり、数は力である。自分の好きな苗木を自分の手で植えた後、子供たちは急に活発になり野山を自分たちの遊園地のように走り回り木や植物を使って遊び始めた。ヤマブドウを採って食べ、アケビを採ってきて親にあげたりした。大木にかかったツルで遊ぶものもいた。山は子供たちの楽園である、と思った。



朝礼の後記念撮影 苗木と共に 金沢諏訪堂の会事務局前



苗木の穴を掘るこども



親と一緒に苗木を植える



植樹後 植えた苗木に囲まれての記念撮影 笑顔に溢れている



植樹を終えて下山し事務局前で記念写真 子供らに笑顔がはじけている

植樹の様子と大持沢で遊ぶ子どもと父兄の様子の以下に紹介する。



トチノキと作業する人々



親子で懸命に作業



子供に穴を掘って見せる



トガで穴を掘る子供



袋から苗木を取り出す



子供たちだけで作業する



クリの苗木を植える



クロサンショウウオと遊ぶ子供たち



周囲の藪からアケビを採る



枯木を刀としチャンバラに興じる



植樹が終わった大持沢



苗を抱えて泥の黒森古道を登る

平成 30 年 11 月 15 日 仙南雁の里ライオンズクラブ 15 周年記念式典

本事業が記念式典の記念事業となり、金沢諏訪堂の会と植樹に参加した美郷町立仙南小学校の児童が表彰された。また、来賓として出席された佐竹知事から植樹活動、山林の保全活動、県主催の水と緑の森づくり税事業に参加し協力

していることに対して感謝と今後の益々の活動の奨励の言葉を貰った。その中で、佐竹知事はクマをはじめとした鳥獣と人の共生が重要だと述べられた。



感謝と奨励を話す佐竹知事



植樹した子供たちの表彰



植樹を表彰された金沢諏訪堂の会



3. まとめ

今年度は奥羽山脈の一角にある横手市金沢字大持沢の山林を整備し苗木を植樹した。この活動に仙南雁の里ライオンズクラブと美郷町立仙南小学校の生徒に呼びかけ参加して頂いた。参加者の評価が高く、この事業は仙南雁の里ライオンズクラブの15周年記念事業となり、表彰された。この活動に対して佐竹知事から県政に寄与していることに対する謝辞と今後の活躍を期待するという激励の言葉を貰った。地球温暖化の防止とクマとの共生の道が県政と軌を同じくしていることを確認できて今後の活動の重要な指針となった。

来年度以降も「秋田県水と緑の森づくり税事業」に参加し、美しい黒森山地の山林を多くの人々が愛し、慈しむような社会になるように努力したい。そして、最終的には地球温暖化をストップさせる活動に繋げてゆきたい。また、クマをはじめとした鳥獣と共生する社会環境を作ることに努力したい。このような事業を考え実施するきっかけを与えてくれた秋田県の事業計画に感謝したい。

以上